

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790500096		
法人名	有限会社 アーバンエステート		
事業所名	グループホーム まえはら		
所在地	沖縄県宜野湾市真栄原3丁目6番28号		
自己評価作成日	平成25年2月8日	評価結果市町村受理日	平成25年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=4790500096-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F		
訪問調査日	平成25年	3月	22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「目配り、気配り、心配り、寄り添い共に生きる」をケアの理念とし、入居者一人ひとりの力に応じた役割分担を行い家庭的な雰囲気の中でゆったりと過ごしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の周辺は住宅、商店、学校等、入居者が散歩しながら出かけられる環境である。入居者と職員が「寄り添い共に生きる」ために、開設当初から三食とも入居者の力を借りて事業所内で職員が交代で調理している。自家栽培野菜への水やり・収穫・スーパーへの買い出し等「食べることを大切にしている。入居者本人が持っているお金を管理する力を大切にしながら、これまでお金を介して続けてきた生活が入居後も出来るよう職員が見守り等の支援を行っている。職員の質の向上を図り、勉強会やケアカンファレンスを通して理念の共有、身体拘束等理念になじまない行為に対して本人の意向・気持ちに沿って検討し具体的な支援まで繋げている。外部研修派遣や資格取得に向けた支援等職員を育てるしくみが整備されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の見易い位置に掲示し、実践に繋げるよう努めている、朝のミーティングに復唱し、一人ひとりの意識を高めるようにしている。	開所前に職員間で話し合い現在の理念を作成した。理念は覚えやすいように短い言葉で語られている。日々のケア場面において振り返りができるよう、ホーム内の掲示だけでなく毎日の申し送りの際にも唱和している。共に生きることを地域密着型サービスとしての理念に位置付けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治体にも施設が存在が浸透し、夏祭りのお誘いを受けたり、近所の方が手作りの漬物の差し入れがある、近隣のスーパーや郵便局へ行き交流を深めている。	開設時より地元自治会に加入している。運営推進会議に地元の自治会長が参加し、地域での行事やミニデイサービスへの参加要請を受けている。近隣のスーパーまで買い物兼ねて散歩に出かけている。近隣に小学校や保育園があるが定期的な交流の機会までには至っていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの受け入れの際は簡単な認知症への講和を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組みや、サービスの状況などを報告し、会議の中で出た意見やアドバイスを、サービスの向上に生かしている。	開所以降2か月に1回定期的に会議が開催されている。家族・市町村担当・近隣の3地区の自治会長・民生委員が構成委員となっている。これまで入居者本人の参加は見られない。昼食を取りながら約1時間報告事項を中心に各委員から意見を受けている。	今後は入居者自身の参加により直接ホームでの暮らしぶりを聞き取り、事業所が掲げる理念が広く地域に啓蒙できるよう災害対策や地域との交流等具体的な取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者との十分な連携を図り、協力関係を築いている、また包括支援センターや医療機関から入居者の相談や紹介など良好な関係を築いている。	入居前から生活保護のワーカーと連携を取り本人の生活情報をお互い共有している。入居後もワーカーの定期的な訪問を通してホームでの暮らしを先方に伝えている。これまで市町村から災害時や虐待時における受入の要請はみられない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月一回のミーティングや勉強会、外部研修などの知識を深め職員は常に介助方法の話し合いを持ちながら、身体拘束をしないケアを心がけている。	本人や家族等がいつでも出入りできるよう日中は玄関の鍵を開けている。外部研修受講後職員ミーティングで研修報告を行い身体拘束に関する内容を共有している。当初立ち上がり動作による転倒を繰り返す方に対して拘束をしていたが、現在は車いすを工夫することで解除することができた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の生活の中で言葉遣いや、行動を意識し不快を与えていないか確認し注意を行っている、必要に応じて席の移動を行っている。		

沖縄県(グループホームまえはら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	役所職員・成年後見人との連携がスムーズに行えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の方に分かり易い言葉で話し合い、十分な説明を行う事で、理解、納得していただけるよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や面会の際での、意見や要望などは運営に反映させるようにし、そのことは運営推進会議などでも報告するようにしている。	入居者からは入浴・外出・厨房等一人になる機会や場面で意見や要望を聞いている。家族からは面会時に意見等を聞いているがこれまで具体的な相談・苦情事例は見られない。第三者委員や民生委員等を活用した外部の相談の仕組みについてはこれから検討していく予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員の意見や提案を聞き、運営に反映させるようにしている。	毎月定例の職員全体会議において勉強会を兼ねてケアカンファレンスを実施している。ケアサービスに関する意見や提案だけでなく理念に立ち戻る機会も設けている。年間研修計画に基づき外部研修への派遣や介護福祉士の資格取得に向けた支援等人材育成に積極的に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力、実績や勤務状況を把握し役割をつけ各自が向上心を持って働けるよう職場環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自の力量を把握し、法人内外の必要な研修への参加を促し実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連事業所以外の方とも交流を深め、認知症勉強会に参加し、情報を共有しサービスへ反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約の段階で、本人の困っていること要望などをお聞きし、安心できるサービスの提供、環境作りにも努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていること、要望を傾聴し安心できるサービスを提供することで、良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日々の支援の中で「その時」を意識して必要としているニーズに基づいた支援が行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの力に応じた作業を一緒に行うことで共に生活している時間を大切にしよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員が本人を支えるのではなく、家族にも出来るだけ協力していただき、共に本人を支える関係を築くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前利用していたサービス事業所の訪問や美容室、馴染みの人と顔を合わせるような場所に、出来る限り出向いていけるよう支援を行っている。	在宅生活において常にお金に対する心配を抱いていた入居者に対して、入居後も原則本人が金銭管理を行うことを継続して支援している。これまで続けてきた金融機関での引き出し行為やスーパーでのお金の精算等行員や店員とのやり取りを職員がそばから見守り本人の出来る力を支えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や関係性に配慮し、席の配置や職員が間に入り、声掛けを行っている、レクリエーションや会話などを通じて、入居者同士の関わり合いを支援している。		

沖縄県(グループホームまえはら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係性を大切にし必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の思いや希望・要望を傾聴し出来る限り本人本位の暮らしができるよう、検討している。	入居間もない時期に居室の窓から外に出かけていく行為が見られた方に対して、本人が「家に帰りたい」という気持ちについて職員間で話し合った。入居者同志あるいは職員との人間関係によるストレスがないのかどうか検討し職員全員で同じ視点を持って関わることで、現在はホームでの本人の役割を果たしていけるようになった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの環境等の重要性を十分に理解し、本人、ご家族、以前利用していた他事業所からの情報を収集を行うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中から個々の「出来ること」を見つけて自立支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、介護者の意見を出し合い検討を重ね、介護計画へ反映している。	本人・家族参加のもと頻回にサービス担当者会議を開催し当事者の意見を介護計画に反映させている。美容室への外出や庭の水やり等本人個別の支援内容も介護計画も盛り込まれている。記録よりアセスメント・課題分析・モニタリング評価の一連のマネジメント業務が適切に実施されていることが確認できた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の記入を行い、常に職員間で情報を共有し、実践の見直しや、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望に応じ関連事業所に自由に参加していただいたり、その時々にも生じるニーズに合わせ、柔軟な対応を行っている		

沖縄県(グループホームまえはら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問診療、訪問美容、介護労働安定センター講習等の受け入れを実施している、近隣のスーパーへの買い物や散歩時も楽しみながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医となっており、訪問診療時はご家族、職員立会いにて相談、検討をし適切な医療が受けられるように支援している、外来受診時は主治医へ情報提供を行い関係性を大切にしている。	馴染みのかかりつけ医を継続し、受診は家族対応で、家族が遠方の方は同行支援している。結果等は家族より口頭で受け、状態の変化や薬の変更等は連絡帳に記載し職員は目を通すよう義務づけている。適切な健康管理ができるよう2~3日前の状態から申し送りしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師との日々の連携、訪問看護師等には、日々の心身の状態や情報、気づきを伝え指示を受けながら、利用者が、適切な受診や看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が安心して治療が受けられるよう、医療機関との連携を密にし、スムーズに行えるよう協力体制を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師より、重度化に伴う意思の確認、事業所が対応できる現状の説明を行っている。家族の意思を踏まえ、医師、看護師、介護にて連携をとり、より良い体制作りに取り組んでいる。	重度化や終末期について、事業所の指針は明文化されていないが、入居時に意思を確認し、急変時の治療(心肺蘇生法)の説明を行い同意書も作成されている。看取りについて研修や痰の吸引について勉強会も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内の勉強会にて誤嚥時の対応方法等実践力を身につけるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年/2回の避難訓練を実施、消火器の取り扱い、避難経路の確認等、消防団や消防署の全面的な協力体制を築いている。	緊急通報装置、スプリンクラー等も設置され、災害時のマニュアルも整備し非常用の備品等も準備している。防火管理の研修に複数の職員が参加している。避難訓練は2回実施しているが、1回は他の事業所での体験訓練である。事業所での訓練に地域の協力は得られていない。	消防署の協力の下で夜間想定避難訓練の実施と訓練に地域住民が参加できるように取組みに期待したい。

沖縄県(グループホームまえはら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の力に応じ声掛けや対応を行っている、プライバシーを損ねるような対応にならないように努力している。	日頃より、言葉遣いに気をつけ、おしつけるのではなく、一人ひとりの個性や過ごしてきた生活に配慮しての言葉かけをし、姓や名にさんをつけて言うなど、本人の馴染みの言葉で対応している。入浴やトイレ等の支援も同性介助や本人に確認して行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から本人の思いや希望で自己決定に結び付けている、意思表示が困難な方は表情やしぐさなどから汲み取り対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や希望を本人に合わせて、職員は臨機応変に対応している、できるひとは自分のペースで一日を過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の持ち物の範囲内で行って、その人らしい身だしなみや、おしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの物があればメニューに入れたり、その人の力に応じ、出来る方には職員と一緒に準備や片付けを行っている。	食事は3食事業所で作り、職員も同じ物を一緒に食べている。食事の一連の作業に入居者の力を発揮する場面は多く、食材の買い出しは輪番で参加し、下ごしらえから食器洗いまで、できる範囲で参加している。おやつ作りには、調理の仕事をしてきた入居者を中心に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え献立を作り一人ひとりの食事、水分量を把握し、その人の状態に合わせて食事の形態やメニューを変更している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの力に応じた、口腔ケアの支援を、毎食後に行っている。		

沖縄県(グループホームまえはら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を大切にオムツ使用を最低限にしている、一人ひとりの力や排泄パターンに応じ、声掛け誘導を行っている。	排泄チェック表を活用してオムツはずしに取り組み、綿パンツにパット、リハビリパンツと昼間は時間誘導でトイレで排せつを行っている。失敗した時は風呂場に誘導し入浴し、夜間時には洗浄して清潔にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼らないように食事内容、水分量に気をつけ、ポカリスエットや食物繊維の多く含まれている食材を利用し便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望を考慮し個別で入浴を行っている、曜日や、時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	入浴は基本週3回であるが、毎日でも可能である。ゆっくり入りたいと見守りで入る入居者、お友達同士誘いあって入る入居者と本人の意思に沿って支援している。着替えも本人に選択していただき、入浴後は化粧する入居者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々の居室や、共有スペースのソファで自由に過ごし、夜間は居室の室温を確認し安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人ひとりが意識し注意を払い、その人の力に応じた服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に合わせた行事に出掛けたり、役割の中で楽しみが持てるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できる限り、本人の希望にそった外出の支援や、時には家族にも協力を求め行っている、身体機能の低下に伴い外出困難な方はベランダにて草花の観賞や日光浴を行っている。	日常的に事業所周辺の散歩や買い物に出かけている。ドライブや花見、近隣の学校のバザーに出かけている。ペットショップで動物とのふれあいや社会見学等、外出する機会も多く、気分転換、五感刺激となっている。	

沖縄県(グループホームまえはら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理ができる方には個人で所持していただき、使用できるようにしている管理が難しい方は事業所管理とし、外出時等に希望があれば使用して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望があれば電話を掛ける支援を行っている家族へ手紙を書いたり年賀状作成の支援なども行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前や施設周りに花壇を設けて外気浴を行ったりし共有の空間は常に環境を整え、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用のテーブル、ソファ、マッサージチェア、を配置し好きな場所で寛いでいる。活動の写真も飾られている。ベランダのベンチに腰掛け、外の空気にふれながら、花や隣家の野菜等を眺めている。ベランダの隅に喫煙場所を設置し工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	サイドテーブルやソファの設置、ベランダのベンチ設置等でその時々で、居心地よく過ごせるような工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた馴染みの物を置いて、手すりが必要であれば本人、家族と相談しながら、設置し居心地良く過ごせるように工夫している。	居室入口には暖簾とドアでプライバシーが保たれている。寝具、家族写真、カレンダー、鏡等が持ち込まれ、作品が飾ってある。ヒヌカンを持ち込み就寝前にお祈りする入居者もいる。家族が遠方からの面会時には布団を貸して居室で一緒に泊まって過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのできることを理解し、その人の力に応じた行動を見守り安全に過ごせるように工夫している		